

世界の中の日本を 徳島で考え、「地球市民」として 自分にできる国際協力を実践。

TICOは、保健医療、農村開発などの分野で、アフリカやアジアで支援活動を行っている国際協力NPO法人。TICOの代表である吉田修氏は、徳島県吉野川市にあるさくら診療所の理事長を務める外科医だ。徳島県を本拠地に、現在、ザンビアやカンボジアでの国際協力活動を実施し、今年の11月には活動17年目を迎える。

ザンビアで繰り広げられる さまざまな活動

TICOの前身は、1993年11月に発足した「徳島で国際協力を考える会」。世界の中の日本を徳島で考え、それぞれが「地球市民」として自分にできる国際協力を実践することを目的に設立された。

現在の主な活動の地はザンビア。いったいどんな活動をしているのか、具体的な内容を紹介しよう。

■有用樹木普及事業 (アグロフォレストリー)

ザンビアでは化学肥料の多用により地力が低下する一方で、貧困農家は化学肥料が買えず、農作物の収量が低下している。そこでTICOは、チベンビ農業大学と提携し、有用樹木の普及の実施を決定。地中に窒素固定を行うマメ科樹木を植えることで地力の回復を図るところから始め、現在では単一作物偏重回避と食の多様化を推進するため、輪作も進めている。

最初は、作物が実るまでに時間がかかること、マメ科樹木を植えることにより耕作地が一時的に減少するなどのマイナス面も

あり、いくら効果的なシステムであっても住民の理解を得るのにかなり苦労したという。しかし、奮闘努力の結果、2003年8人のメンバーで始まったプロジェクトは、2009年には100名を越える大所帯となっているようだ。



アグロフォレストリー

■コミュニティスクール支援

干ばつに強い村の未来を担う子どもたちの教育は、たいへん重要だ。しかし、公立学校の数に限られており、定員オーバーで学校に通えない子どもたちが、ザンビアにはたくさんいる。地域の親たちは自分たちでコミュニティスクールを立ち上げて子どもたちに最低限の教育を受けさせようがんばっているが、国からの支援はなく、資

金もないため、教室、トイレ、黒板、机、椅子などの学校設備は粗末で不十分なのが現状。TICOは農村地域の教育現場の改善をめざし、コミュニティスクールのハード面での支援を行っている。



コミュニティスクールの子どもたち

■プライマリ・ヘルスケアプロジェクト

農村部では医療機関が十分に整備されていないため、保健医療へのアクセスが容易ではない(医療機関が遠いなど)。そのような地域の子どもとその母親の健康を守るためのプロジェクトでは、以下の4つを柱に活動をしている。

1. 最低限の医療を保障するヘルスポスト(簡易診療所)の建設
2. 住民保健ボランティア/栄養改善普及

員の人材育成

- ヘルスポストとボランティアの連携活動
- 乳幼児の栄養改善



モンボシヘルスポスト

■農村開発ローン

農民グループに対して彼ら自身が考え出した「小規模起業」を支援するため、事業資金を日本の支援者から募り、無担保・無利子で貸しつけ、事業に必要な技術や知識の習得のための研修を提供する。上限額は150万クワチャ（約26,500円）。2009年10月現在までに、養鶏・タックシヨップ（日用品店）、幼稚園整備、足踏みポンプや古着の販売など22事業16グループにローンを締結。驚くべきことに、返済率は約8割だという。返済が遅れているグループもあるが、そうしたところにはモニタリングをし、グループの問題を共有し、解決に向けてのアドバイスも行う。



農村開発ローン

■ルサカ市救急基盤整備プロジェクト

ルサカ市は、ザンビアいちばんの都会であるため、交通事故、強盗などの犯罪も多く、命にかかわる事態が頻繁に発生する。しかし、けが人を病院まで運ぶには、富裕層向けの高級な救急サービスはあるものの、通常はタクシーや知人の車などの車両を使用するしかない。そのため応急処置もままならないまま死亡してしまうケースも多かった。

TICOは、そのような状況を改善するために、現地NGOで姉妹団体のSCDPを支援し、救急車や無線網を配備して、救急隊員の養成を行った。現在は運営資金の確保など課題も多いが、ザンビア人スタッフによって自立運営されつつある。救急救助活動も板につき、住民にも受け入れられてきている。



SCDP救急隊

世界に目を向けるとともに 日本における活動も重視する

TICOの主な活動地域はザンビアを中心としたアフリカ、アジアだが、本拠地である徳島での活動も活発だ。そのひとつに、「地球人カレッジ」と銘打った一般の方向けの公開セミナーがある。「地球規模で考えながら地域から活動していく」人の輪を広げることを目的に、さまざまな分野で活躍している人を講師として招き、月に一度のペースで講演会を開催。テーマは国際

協力、環境、教育、農業、開発教育など実に多岐にわたり、参加者が世界に目を向けてものを考えるきっかけになる場として、大きな役割を果たしている。

また、TICOでは国際協力を知ってもらうために出前講座を行ったり、学生などを対象に宿泊を行っている。ほかにも、徳島の柚子畑で収穫を体験し、収穫した柚子の収益金をザンビアに寄付をする活動も行っている。地元の自然に触れながら、国際協力に貢献をする活動は、TICOならではのものと言えるだろう。

TICOの代表である吉田氏が運営する「さくら診療所」は、徳島県吉野川市で在宅医療や介護支援などを行って地域医療の一端を担っている。一方で、同診療所の医師は交代でザンビアやカンボジアを訪問し、活動に参加しているそうだ。吉田氏は、今後なんらかの収益事業を展開し、資金調達を行う道を模索していこうとも考えている。彼は現在51歳。まだ、現役としての活躍を期待される年齢だが、吉田氏は「自分自身が活動できる時間は長くないので、後悔しないためにも自分ができることに精いっぱい取り組んでいきたい」と熱く語った。

TICOの国際協力活動は、寄付金や会費によって
支えられています



【お問い合わせ先】
特定非営利活動法人TICO
〒779-3403 徳島県吉野川市山川町前川120-4
TEL / FAX: 0883-42-2271
E-mail: info@tico.or.jp
URL: <http://www.tico.or.jp/>